

平成 27 年 9 月 24 日

兵庫教育大学長 殿

受入研究者

所属・職 教育実践高度化専攻・准教授

氏名 安藤 福光



外国人研究者短期招へいプログラム研究成果報告書

外国人招へい研究者の研究経過について、下記のとおり報告します。

1. 外国人招へい研究者 氏名 (所属・職・国籍) イヴァルス・ムティス (リーガ教員養成教育経営大学・教授・ラトヴィア)
2. 研究課題名 日本と EU-ラトヴィアの大学院教員養成制度の比較研究 (英訳名) Comparative study on teacher training system of graduate school between Japan and EU-Latvia
3. 期間 平成 27 年 7 月 21 日 ~ 平成 27 年 7 月 30 日 (10 日間)
4. 主な研究協力者 氏名 (所属・職・氏名) 堀内孜 (先導研究推進機構・特任教授)、淀澤勝治 (教育実践高度化専攻准教授)

(注) 必ず招へい研究者の作成した Research Report と併せて、招へい期間終了後 1 か月以内に、提出してください。 (裏面につづく)

5. 滞在中の日程

年月日	訪問先名称・訪問内容（研究討議・講演・視察等）
2015.7.21.	(関西空港着―渡日)
7.22.	兵庫教育大学：学長等との交流協議、講演
7.23.	兵庫教育大学ハバーランド・キャンパス、神戸ラボ：施設見学、ラボスタッフとの研究協議、講演
7.24.	兵庫教育大学教職大学院学校経営コース：授業参観、教員・院生と懇談
7.25.	(移動：加東―京都)
7.26.	(京都市内文化研修)
7.27.	京都市総合教育センター：視察、面談調査
7.28.	京都市立上高野小学校：施設見学、校長面談 宇治市立北宇治中学校：施設見学、校長面談
7.29.	京都教育大学教職大学院：施設見学、研究協議
7.30.	(関西空港発―帰国)

(注) 来日日及び離日日を含めて記入してください。

6. 研究討議・研究協力等実施の状況とその成果

- 滞在中の協議や講演を通じて、EU諸国の高等教育改革、教員養成制度改革の状況をリアルに把握でき、またそれとの距離関係において、現下の日本における教職大学院を中心とする改革の位置づけが確認できた。
- 招聘研究者の本学をはじめ、各種の教育機関、研修期間への訪問参観において示された感想、意見、知見から日本の教育、教員養成の持つ特質、利点と問題点についての示唆を得ることができた。
- 2回の講演によって参会者（加東キャンパスの講演では教職大学院現職院生を中心に約50名が参加）は、EU諸国の教育、教員養成の実態のみならず、ギリシャ問題やウクライナ問題を含めた現在の国際問題と教育課題の関係について、極めてリアルな問題提起を得ることが出来た。教育関係者にとって「教育の国際化」を多面的、多元的に理解する上で、きわめて有意義であった。

7. 外国人招へい研究者事業に対する意見・要望等

- 本学がこの招聘プログラムを持つことは、研究の国際交流のみならず本学全体の国際化、活性化に極めて有意義と評価できる。
- 本プログラムを一層、有効に活用するためにも、その経費支給等の運用において、若干の改善が望まれる。航空運賃の実費支給以外の経費において、宿泊費、食費、移動経費、資料購入費等を一括する経費設定が可能であると望ましい。

* Please submit your research report to HUTE through your host researcher within one month after the end of your Fellowship Period in Japan.

To President, HUTE

HUTE SHORT-TERM FELLOWSHIP PROGRAM
FOR RESEARCH IN JAPAN
RESEARCH REPORT
(Cover Page)

Affiliation: Riga Teacher Training and Educational Management Academy

Name of the Host Researcher: Yoshimitsu Ando

Fellowship Period: From 21.7.2015 To 30.7.2015

Title of the Research:

Comparative study on teacher training system of graduate school between Japan and EU-Latvia

Date: 24.8.2015

Your Signature: Ivars Muzis

* Future Contact Information

(If you wish HUTE to maintain contact with you after the completion of your fellowship)

(Office/Home)

Fax No.: _____

E-mail Address: _____

Address: _____

(It continues on the reverse.)

<招聘研究者による報告書>

1. 謝辞

本報告書を提出するにあたって、日本での研究の機会、兵庫教育大学での講演の機会を与えていただいた兵庫教育大学の加治佐哲也学長他、多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。とりわけ本招聘の受け入れ研究者となり、多大な労力を割いていただいた安藤福光准教授と実際の研究パートナーとして日本での研究のアレンジ、コーディネートをしていただいた堀内孜特任教授には格段の謝意を表したい。

また私の勤務校、リーガ教員養成・教育経営大学（RPIVA）と兵庫教育大学が姉妹校提携をした2012年5月以降、兵庫教育大学から何人かの教員、大学院生のRPIVAへの研修訪問を受け入れてきたが、私が兵庫教育大学で研究する機会を得たことによって、両大学が今後一層の交流を進めることを期待したい、そのために尽力できれば幸いである。

2. 日本での研究活動等の概要

(1) 研究協議等の概要

今回の訪日研究のテーマについて、受け入れ研究者の安藤福光准教授と研究協力者の堀内孜特任教授とは多くの時間を割いて情報交換、意見交換をすることが出来た。また兵庫教育大学の神戸ラボでは教育行政リーダー養成の新しい取り組みについての情報を得ることが出来た。加えて堀内教授の前任校、京都教育大学連合教職大学院では、日本において教員養成についての多様な意見が存在することを知ることが出来た。

日本の研究者との意見交流を持つことによって、日本の教員養成の特徴や問題点、改革動向等を多面的に理解できたとし、またEU諸国の教員養成制度の概要とラトヴィアを例としたその多様性を紹介することも出来た。

(2) 日本の学校、研修機関の参観、調査からの知見

今回の日本での研究で2つの大学（兵庫教育大学、京都教育大学）と京都の小中学校（京都市立上高野小学校、宇治市立北宇治中学校）、そして京都の教員研修機関（京都市総合教育センター）を訪問し、施設参観と関係者との面談調査を行った。

訪問した2大学は、いずれも国立の教育大学であり、教員養成において卓越した取り組みをしている大学であることから、現在の日本の教員養成の水準と課題、とりわけ教職大学院によるその高度化の課題を理解することができた。京都の小中学校では、夏休みのため授業等の参観は出来なかったが、校長へのインタビューによって、校内研修による教員の力量向上の取り組みが日本の学校に共通する特徴となっていることから大きな示唆を得ることが出来た。また京都市総合教育センターでは現職教員の課題に応じた体系的な研修がプログラム化されていること、全ての都道府県、政令市、中核市においてこうした研修センターが設置されていることを知り、日本の教育の高い水準が維持されていることが理解できた。

(3) 講演会の実施とEU—ラトヴィアの教育、教員養成の紹介

今回の日本滞在中に、2度の講演会を企画していただき、EU、ラトヴィアの教育や教員養成またヨーロッパ諸国の抱える様々な問題について紹介し、日本の教育関係者と共に考えることが出来た。

① テーマ：EU諸国における教員養成制度の標準化—ラトヴィアの事例から

7月22日（水）15：00～17：00、 教育社会言語棟402教室

開会挨拶：安藤准教授、司会・進行：堀内特任教授、通訳：大山特任准教授

参加者数：約50名（主に教職大学院現職院生）

② テーマ：EU小国における国際化とは？—民族、言語、宗教、経済そして軍事

7月23日（水）14：30～16：00、 神戸ラボ

進行・通訳：堀内特任教授

参加者数：7名（神戸ラボスタッフ）

3. 教員養成研究における日本—EU（ラトヴィア）の比較からする日本の研究について

ラトヴィアを含むEU諸国は、ボローニャ・プロセスを基軸に高等教育の共通枠組みの設定、教育内容の「標準化」、学生移動の容易性増大を進めてきた。高等教育—大学の年限についても学部—大学院修士課程を「3年+2年」にし、「180ETCS+120ETCS」の単位をもって共通枠組みを設定すること

を進めてきた。教員養成制度もこの高等教育の枠組みの共通化の下に各国が改革を進めてきたが、EU各国の教育水準、就学率の差異から、また国民教育を担う教員に求める質の違いから、一律に進捗してきたわけではない。

日本における教員養成制度改革が、教職大学院の設置と拡充を焦点とするその「高度化」を機軸として進められていることが理解できたが、その背景として学校教育問題の多様化、深刻化があり、教員の「実践的指導力」の向上を図ることが企図されていると思われる。そのために教員養成において、「理論」と「実践」の融合が強調されつつも、教職大学院のカリキュラムに認められるように、「実践」により重点を置くものとなっているように受け取ることが出来た。だがEU諸国では教員養成におけるこの「理論」と「実践」を「theoretical」と「professional」としているが、日本の研究者の多くが「実践」の訳語を「practice」としていることに問題を感じた。つまり日本では「実践」が「専門性の行使」ではなく「技術性の行使」とされ、それが「理論」と対峙するものと理解されているのではないだろうか。

日本の教育のレベル、質の高さについては、ラトヴィアのみならず多くのEU諸国で定評があるが、それを支えているのが教員養成制度や教員研修制度であることが、今回の訪日で確認できた。だがその政策動向も含めて、日本が教員の practical な「実践性」の向上を改革課題としているとするならば、それには必ずしも同意できない。安藤准教授、堀内教授の考えはこれとはかなり異なるものと理解し、学ぶべきところが多かったが、日本の経験や実績から、教職の専門性、専門職性の内容の検討を通じた professional な「実践性」の提示、確立が求められているし、可能と思われる。

今回の訪日によって、安藤准教授、堀内教授との意見交換、また神戸ラボでの論議や京都教育大学連合教職大学院での研究協議を行うことが出来、上述の点を軸に日本とEU（ラトヴィア）の教員養成の比較の核心的な視点を得ることが出来た。

4. 本招聘プログラムについて

(1) 今回の本プログラム実施について

今回、兵庫教育大学の本招聘プログラムによって、10日間の日本訪問が実現できたことは、私にとって次の2点で極めて有意義であり、重ねてこの機会を与えていただいた兵庫教育大学に感謝したい。

第1は、15年前に日本の国際交流基金のフェローとして半年間、京都教育大学で日本の中学校の学校経営と校長のリーダーシップの研究に従事して得られたことを、改めて異なる枠組みで確認できたことである。私自身、自国で教員養成、学校管理職者養成に関わっており、日本の教育の質的水準の高さと学校経営の質、学校管理職者・教員の質との関係について、実際に確認したく思っていた。今回の日本訪問で、兵庫教育大学の教員をはじめ、教員養成や教員研修の関係者から様々な情報を得、また意見交換出来たことによって、この点を実現することができた。

第2は、我が母国、ラトヴィアは日本から遠く離れた小国であるが、首都リーガは神戸市と姉妹都市であり、また勤務校RPIVAは兵庫教育大学と交流協定を締結している。だがリーガと神戸市、RPIVAと兵庫教育大学の交流活動は十分になされているとは言えない。私の兵庫教育大学や神戸を中心とした10日間の滞在とその間の多くの方々との交流が、これら両者の交流に幾許かの意味を持つものであったなら大変幸いである。

(2) 本招聘プログラムの在り方について

本招聘プログラムによって日本で研究を実施することが出来た立場からは、このような外国研究者招聘プログラムを1大学が持ち、運営することに敬意を表し、賛意を示すものである。滞在中の研究計画、調査機関訪問や宿泊・交通の便の予約確保、また全行程の同伴や食事の設定まで、全て不安に感ずることなく実施していただいたことに御礼申し上げたい。

だがそのために、私の招聘、滞在に当たって、受け入れ研究者の安藤准教授、研究協力者の堀内特任教授が多大な労力と経費を必要とされたことを知り、本プログラム運用においてその軽減を図ることが可能となることを願っている。

(堀内孜・安藤福光共訳)